裾野麗峰山の会・山行報告書

文・合谷、後藤　　写真・後藤

山行NO　　山行ＮＯ．１８２２
日　時　　２０１９．０６．１４（金）晴・上部やや風
山　域　　富士山（３７７４ｍ）
コース　　富士宮五合目発５：３０－六合目６：４３（１５分ロス）－七合目７：１９－八合目７：５６－九合目８：４３－九合五勺９：３４—ブル道—頂上１０：４２－九合五勺１１：１９～４０－最終雪渓１２：４７－五合目１３：２５
標高差　　上り　五合駐車場約２３８０ｍ～頂上３７７４ｍ＝約１３９４ｍｍ
　　下り　　〃
参加者　　後藤、加藤、勝又、合谷＝４名

【後藤記】
今年の富士山は残雪が多かった。しかも２～３日前、またまた寒の戻りで八合目以上は降雪。仰ぐお山は真っ白だった。５月末スキーに続き二回目の富士山。前回、日帰りで余りに厳しかったので、今回は前泊とした。１６時、富士宮五合目は閑散としていた。思ったほど寒くない。
来る時、下で見た外人さんがいた。聞けば千葉から来た親子だった。軍人らしいが、横田・横須賀ではないらしい。今日、帰るというが、「何処かにスシはないか」という。御殿場にサイコーに旨い「魚がし」があると教えて上げた。陽気な親子。車はレンタカーだった。

下山してきたオジサンがいた。清水市の７６歳の方で昨夜来たという。高齢で迷惑を掛けるから山岳会には入っていないという。清水労山は知っていた。上りは８時間掛ったそうだ。上部は新雪だがピッケルの必要はないとの情報を得た。年齢だが、その情熱に感服。
天気が良く温かいのでトイレ入口脇のテラスで外（そと）食。ビアとワインが旨かった。下界は一面の雲海だった。こんな時は好天が続く。テントは下がコンクリで硬く、いささか寝難くかった。フライがパタパタ煩かった。ＫＹは２１時ころ来たらしいが車中泊した。

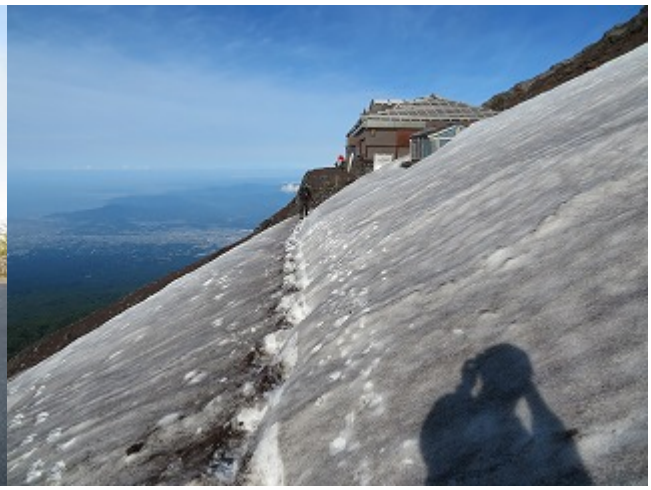
外人親子

【合谷記】

今回の富士登山は30数年前に学生時代の友達と登山して以来の2度目の登山である。
最初の登山で富士山は登るより遠くから眺めた方がいい山だという思い込みがあり、その後は裾野に住んで毎日富士山を眺めてはいるが、全く登っていない。今回はGTさんから12本爪のアイゼンの提供を受けての2度目の登山となった。

14日は早朝スタートで富士宮口の5合目に前泊（テント泊）するため、13日15時半に裾野でGT車に拾ってもらう。(KYさんは仕事があるため、夜に単独で5合目に移動)
夕食はKHさんが準備してくれていて、誠にありがたい。また、5合目に行く途中に御殿場のY精肉店で「馬刺しと牛焼き肉」を調達、何と豪華な夕食であろうか。
17時に5合目に到着、すぐにテントを設営。天気もよく、寒くもないので、テントの外で夕食を取った。それにしても、見事な雲海と目前に迫る雪を頂いた富士山頂を眺めながらの豪華な夕食は素晴らしい、山に登らなくてもこれだけで十分であった。

五合目


六合目

初１２本アイゼン

七合目

4時半に起きて、朝食時にKYさんと合流（KYさんは前日21時過ぎに到着し、車中泊)。5時半に5合目を出発、いよいよ、30数年振りの富士登山の始まりである。6合目までは雪もなく、火山瓦礫の歩き難い登山道が続く。最初の登山の時もそうだったが、私は火山瓦礫の上を歩くのが苦手なの

か、どうしても富士登山を好きになれそうもない。
6 合小屋（新 7 合目 御来光山荘）の手前に大きな雪渓が残っており、雪渓歩きに慣れていない私はいよいよ初めての 12 本爪のアイゼンを使うことになった。
一度、家でアイゼンの取り付け方を練習はしていたが、いざ現場でアイゼンを取り付けようとするとスムーズに行かず、GT さんからお叱りを受けてしまった。無事に雪渓を渡り、そこから、また 8 合目まで、火山瓦礫の厳しい登りが続いた。
8 合目を過ぎてから残雪が多くなってきたので、再度、12 本爪のアイゼンを取り付けて頂上を目指した。雪の上は瓦礫の登山道より、ずいぶん歩き易い。

八合目

九合目

九合五勺上ブル道

頂上直下

快調なペースで 9 合目、9 合 5 勺を超えて、剣ヶ峰に到着したが、頂上は風が強く、休む暇もなく下山。9 合 5 勺から 7 合目まで GT さん、KH さんのサポートを受けながら、生まれて初めての雪渓下り。一般の登山道を下るより、遥に気分爽快である。
7 合目から歩き難い火山瓦礫の登山道を転ばないようにゆっくり下って何とか 5 合目に到着。途中、足が疲れていたせいか、2 度も尻もちをついてしまった。
2 度目の富士登山でしたが、やはり、火山瓦礫の登山道で足がかなりダメージを受けました。
また、開山前にブルドーザーや年配のおじさんが登山道を整備していて、面白く思った。

６月にしては多い雪

頂上直下

富士山頂

【後藤記】

ブル道を辿り頂上着。約５時間は、まあまあの時間。２０１２年・６５歳からデータをとっているが、時間は案外変わらない。変わるのは「辛さの度合」である。頂上には誰も居なかった。風が強いので写真を撮り下山。ブル道を下ると、七合辺りから聞こえていたブルが２台上って来た。先頭は除雪用、後ろはユンボを積んでいた。

丁度、カーブの所で停車し、我々を待っていてくれた。年配のオジサンだった。てっきり小屋関係

工事関係ブル

の方と思ったが聞けば、「頂上のトイレを掘りに来た」そうだ。開山が近いからである。
後で聞いた話だが、今日はとりあえず下るという。また、上るのも大変なこと。ちなみに夏は九合小屋に宿泊するという。下るタイミングが遅れたＫＹ、ＧＭは、だいぶ待たされた。ブル道は、雪が圧縮され歩き易くなった。九合五勺で大休止。頂上は早くも怪しげな雲が湧いてきた。

昼食

下山

九合五勺から雪渓を下る。富士山登山は、ほとんど残雪期。理由はある。「残雪期は下りが楽」だからである。過去、歩きで最速１時間４８分。夏では不可能な時間だ。雪渓は六合下まであった。先日のスキー時とさほど変わらなかった。

六合下に登山道整備のオジサンがいた。富士宮の方だった。ご苦労様です。早い時間に五合目着。時間があったので「お胎内温泉」で汗を流した。今回もイイ山でした。

（了）